

平成 29 年度 学校評価（自己評価）

I. はじめに

学校における最も基本的な項目は、**園児の安全確保**である。
それ故、今回は、**防災教育を中心として、当園の安全教育**にテーマを絞り、学校評価を行うこととした。

日常の安全教育に対する自己評価を行い、それを基に、学校関係者評価を行った。
目標設定 (P) 実行 (D) 評価 (C) A(改善) の各要素について、学校評価を行う。

II. 本年度の学校評価の項目として、安全教育（主として防災教育）をテーマに選んだ理由……目標設定 (P)

学校における最も基本的な項目は、**園児の安全確保**である。
日常における保育の中で、**安全確保のために、どのような教育活動**に取り組んでいるかを、学校評価の中で明確にしたいというのが、目標設定 (P) の第一である。

一方、安松幼稚園の教育は、すべての分野において、**情緒教育**そのものである。
目標設定 (P) の第二として、安全教育（防災教育）が、**単に園児の安全確保を目的とした教育に止まるのではなく、災害に負けずに人が生きていく姿に感動し、命の尊さに目覚めるといふ、情緒教育**そのものにも、今回の学校評価の中で踏み込んでいきたいと考えている。

繰り返せば、今回、学校評価のテーマに安全教育（主として防災教育）を選んだ理由、学校評価の目標設定 (P) は、一に安全確保の意識を高める。そして二に、それだけに止まらず、上記赤字について、当園の防災教育を評価・点検・反省をしたく考えたからである。

III. 実行 (D)

● I. 第一目標である安全を確保する目的での実施事項（平成 29 年度中）

- ・地震や火災を想定しての避難訓練 全園児対象
5月18日 10月31日
全員が避難し集合・点呼という基本行動の訓練
- ・交通安全教育 年長児対象
10月26日
ホールでのお話 並びに 運動場での実技訓練

● II. 第二目標である 災害に負けずに人が生きていく姿に感動し、命の尊さに目覚めるといふ 情緒教育としての防災教育（平成 29 年度中）

- ・阪神淡路大震災を教材にした防災教育 全園児対象
平成 30 年 1 月 16 日
- ・東日本大震災を教材にした防災教育 全園児対象
平成 30 年 3 月 9 日
- ・東日本大震災復興支援ソングの取組 年長児対象

本園では、阪神淡路大震災 と 東日本大震災の日に、全てのクラスで、当時の新聞記事や写真を用い、全ての先生で防災教育に取り組み、平成 29 年度も実施した。

詳細については、評価の中で明らかにしていく。

● 上記の実行は、全ての先生により、園全体として取り組んでいる。

尚、園児対象の上記以外に、自治体や地域での合同避難訓練（平成 29 年 11 月 5 日）などにも園として参加している。

IV. 評価 (C)

- I. 第一目標である安全を確保する目的での実施事項（平成 29 年度中）に関する評価
- ★全園児対象の避難訓練に関しては、それぞれ定められた避難経路を通り、全クラスとも速やかに運動場に整列することが出来た。
その後、人数点呼をし、クラス担任→学年主任→教頭 の手順で、当日登園していた全園児の安否が確認された。
 - ★年長児対象の交通安全教育においても、ホールでの講義で安全意識を高め、運動場での体を動かしての実技を通して、通行の仕方が身に付いたと報告された。
全ての先生から、十分に成果を上げることが出来たとの報告があった。
- II. 第二目標である 災害に負けずに人が生きていく姿に感動し、命の尊さに目覚めるという情緒教育としての防災教育（平成 29 年度中）に関する評価
- ★本園では、阪神淡路大震災 と 東日本大震災の日に、全てのクラスで、当時の新聞記事や写真を用い、全ての先生で、次のような事を実行している。
 - ・どのような地震、災害であったのか
 - ・災害の時の避難の心構え、災害後に力強く生きる人々についての話
 - ・命の尊さについて
 - ・玄関に弔旗を掲げ、クラス別に 黙禱をささげる
- 先生が写真や新聞記事を用いての説明の後、例えば「地震で家が倒れ、お母さんが下敷きになって動けません。幸い、お友達は動くことが出来ます。周りでは火事が起こり、火の手がお家にもせまってきました。」というような話をすることもあります。
- 先生と子供の間で色々な会話が飛び交い、先生「お母さんの想い、願いは何でしょうか？」と話を進めていくうちに、子供「私達が元気に生きることや。」というような話が出てくる。
- このような教育を通じて、辛い困難な事を乗り越えて生き抜くことこそ、家族の願いに応えることになるという風な気持ちを抱いていくようになっていき、命の尊さにも目覚めてくる。
- 3 歳の子供でも涙を流しながら話を聞き、心の中に、色々な想いが届いたようですとの報告が、多くの先生からあった。
- ★特に平成 29 年度においては、6 月末の園内音楽会で、年長児全員による 東日本大震災復興ソングの“花が咲く”を熱唱し、多くの保護者に感動を与えた。
たまたま園児のご両親の中に、東日本大震災の被害に遭われた方がいらっしゃるということをお聞きし、平成 30 年 3 月 9 日（金）に園にご招待して、娘さんを含む 5 歳児全員による“花が咲く”をお聴き頂いた。そしてこれらが、産経新聞の取材につながることもなった。
- 自己評価
- ★避難訓練においては、落ち着いた行動で短時間で園児全員が避難することが出来たと、高く評価する次第である。
また交通安全教育についても、十分にその目的を達したと評価する次第である。
 - ★写真や新聞を用いての震災などの防災教育では、先生と子供の会話を通して、
 - ・人が生きるとは ・親の子供への思い願い などが、子供の心の中にストンと、入っていったとの報告が、全ての先生からあった。
 - ★このような心の中まで踏み込んだ防災教育の後には、多くの保護者から、子供が家で自分の思いや感じたことを色々と話してくれて、親の私まで、多く考えさせられましたとのお手紙を多く頂いている。単なる防災教育にとどまるのではなく、情緒教育にまで踏み込めたと、高く自己評価する次第である。
尚、保護者からのお便りは、 学校関係者にも提示して、評価を頂く所存である。

V. 改善 (A)

- 本園の防災教育は、単なる避難訓練などに終わるのではなく、今後とも、園児の心の中にまで踏み込む情緒教育でありたいという想いを強くした。
- 先生の想いを伝えるには、先ず第一に先生の熱い想い、第二に子供の発達段階にあった話の組み立て、第三に写真や新聞記事の利用などが重要であると感じ、この線に沿って、授業を改善していきたいと考える。

上記のように、本園の防災教育・安全教育を、PDCAの各要素において自己評価するところであり、上記 **V. 改善 (A)** に記したように、先生の力量を高める一助とし、授業を改善していきたい。そしてこの自己評価を、若干の資料を添えて、学校関係者評価の会に提出する所存である。

※ 尚、情緒教育としての防災教育の一風景を数点掲載しておく。



↑ 年長5歳児の防災教育です



↑ 心を込めて真剣に聞く子供達



↑ 先生の話が5歳児の心に届きました



↑ 自分の思いを発表する5歳児です



← 年少3歳児の防災教育です



↑ 先生の話をもっと真剣に聞く満3歳児です

平成29年度 学校評価 (学校関係者評価)

I. 最初に

今回、学校関係者委員会に提出された本29年度の学校評価(自己評価)は、**防災教育を中心とした安松幼稚園の安全教育**をテーマとされていました。

学校関係者委員会として下記の評価に至りましたので、ここに学校関係者評価を提出致します。

II. 先ずは、自己評価の検証

(1) テーマ (P 目標設定)

どの保護者も、子供の安全を願っていることと思います。

子供の安全を確保するために、どのような事を為されているのかを、私達も知りたく思います。

防災教育を含む安全教育を評価の目標設定とされたことは、昨今の災害の多さから見て、適切なテーマであると評価致します。

(2) 具体的にどのような事をされているか (D 実行)

安松幼稚園における安全(災害)教育は、大きく2種類あるということの評価致します。

自己評価にあります通り、単なる避難訓練などだけではなく、子供の心の面にまで触れられ、情緒教育まで踏み込まれていることに、親として保護者としても喜ばしいことであり、具体的に実行されていることを評価致します。

(3) 実際の私達保護者の (C 評価) として、次のお母さんのお便りを、掲げたく存じます。

そのお手紙から理解できることですが、安松幼稚園の安全教育が、子供の心の面にまで触れられ、情緒教育まで踏み込まれているという自己評価を、全面的に肯定致します。

●傍証として、お母さんのお便りを数点、掲載します。

新聞を持って行きたい

年少りす組 保護者

「新聞を持って行きたい」

東北地方で大地震が起きた日、幼稚園から帰ってきた娘と一緒にテレビを見ました。

「地震や津波で大変なことになっているね」と話しながら、しばらくテレビから目が離せませんでした。以前、幼稚園で先生から聞いて(お話があったと娘から聞いていますが)、阪神大震災の怖さを知ったこともあり、大変なことが起きていると娘なりに感じているようでした。

翌朝、普段は新聞など見もしないのに、新聞一面に載った地震の写真を見るなり、「ちょっと、その新聞見せて」と言って見ていました。

今朝通園カバンの中を見ると、きれいに折りたたんだ新聞が入っていたので、「何だろう?」と、取り出してみると、地震の被害が載った写真でした。

てっきり主人が「幼稚園に持って行ったら」と、娘に持たせようとしたのだろうと思って、主人に聞いてみると、「知らないよ」と。

娘に聞くと、「先生に見せて教えてあげたいから、持って行きたい!」と言いました。「でも先生も、ニュースや新聞などでもう知ってるよ」と言いたいところでしたが、「自分でこうしたいから……」と思ったことや、新聞をきちんとたたんで鞆の中に持って行く準備をしていたことを思うと、言えませんでした。

子供なりに大震災に対してこういう反応が出来、関心を持てたのは、先生方が日頃から震災のお話をして下さったからだと思います。

今朝はこういうやり取りがあって、新聞を持って行くことになりました。

理事長注:

安松幼稚園では、毎年1月17日に、阪神大震災について子供達に話します。

- ・被害の具体的な様子
- ・亡くなった人や被害にあった方の変なこと
- ・そういう中で、いろいろな人の助け合いがあったことなど

子供達は、3歳児でも、涙を流しながら話を聞きます。心に染みるのでしょう。家に帰ってからも、お家の方に、自分が聞いた衝撃の話をしているようです。

今回のお手紙にあったように、そういうことが身に染みて、自分でもその大変さが分かり、その気持ちを先生と共有したいという思いから、新聞を持って行きたいと思ったのでしょう。

日常の幼稚園生活の中で、社会的な関心を持つとともに、優しい心が育っていることを嬉しく思いました。

3月11日の震災の話を幼稚園で聞いた日
お仏壇に長く手を あわせていました

年中ばら組 保護者

3月11日の晩ご飯の時「今日は、仏壇にご飯、僕があげる」と言って、いつもよりなが〜くなが〜く、手をあわせていました。

私が“ありがとう”と言うと、「今日、幼稚園で3/11の地震について教えてもらったもん!」と、言っていました。

又その日は、家では食べようとしなかったトマトも、頑張ってお手紙を書きました。

お手伝いもしてくれました。

靴ならべ、洗濯物たたみ、部屋のかたづけ、食器はこび、たくさんお手伝いをしてくれました。

この週末は、“幸せだなあ〜”と、とても嬉しかったので、このお手紙を書きました。

恥ずかしくも親の方が気付かされた次第です

年少きりん組 保護者

昨日園から帰るなり、「お母さん、阪神大震災はな……」と、話し始めました。

地震で6433人もの方が亡くなったこと、はさまって動けなくなった事、家もテーブルもお洋服もみんなみーんな失ってしまった事など、一生懸命(たぶん)先生口調でお話ししてくれました。

そして「目つぶって、地震のことを考える気持ちになったんや!!」と。(黙祷のこと!?)

「そうやねー、今日は皆でお祈りしなあかんねえ」と、恥ずかしくも親の方が気付かされた次第です。

3歳の我が子から、阪神大震災の話が聞けるとは驚きでした。

↑正しい名称で

幼稚園では、こうした大切なお話を解りやすく話して下さるようで、とてもありがたく思っています。こうした事の積み重ねで、人の心の痛みのわかる子になってくれればと思います。

周 り の 人 を 思 い や る 心 を

担任の先生から上記きりん組の保護者への返信です

寒さが厳しくなってきましたが、子供たちは、外でボール遊び、縄跳び、走りっこなど、元気一杯です。

さて先日は、お子さんの家での様子を聞き、とても嬉しく思いました。

阪神大震災やスマトラ沖大地震などの話は、どの学年も心の教育として行います。

3歳児には、本当にわかりやすく話します。

こちらが、「こんな風になった人がいましたよ」というような第3者的な話し方だと、全く心に響かず、その場で火事が起こっているような「助けてー!!」と叫ぶ声があちこちで聞こえていることなど、ゆっくり時間をかけて伝えました。

子供達の中には、涙を流す子供もいました。自分のお母さんが倒れてきた木にはさまって動けずにいる。火は目の前まで迫ってきた。「あなたは逃げなさい。お母さんは後から行くわ!早く逃げなさい!」という状況になったとき、みんなはどうするか……と、考えました。

しばらくして「先生、慶くんは走って逃げる!それでお母さん助けてって言う!」と話していました。私もみんなに「お母さんお母さんと、泣いてくっついてばかりいてもだめ!勇気を出して逃げるのよ」と伝えました。

3歳は3歳なりに受けとめている顔をしていて、私も胸が一杯になりました。

慶さんの心の成長をみな先生で喜びました。

理事長先生の添え文

3歳児の子供たちの優しさ・感受性に脱帽です。

「日常、私達が当たり前とと思っていることが、実はそうではなくて、色々な周りのお陰により支えられているんだ」ということを感じる心を、当園では育てていきたいと思っています。

災害は悲しい出来事ですが、そういう折こそ、子供たちとしみじみと話す機会でもあります。

私は、この先生の返事を見て、涙がこぼれました。

教室での先生と子供達の心の交流が頭をよぎったのです。子供達に色々なことを想像させ、優しい心を育て下さる当園の全ての先生に感謝します。

●金曜日、幼稚園から帰ってきて「津波でケガをしたのに、薬もなく食べるものもないので困ってるから募金をしてあげないとダメだから、ママ 100 円ちょうだいね」と話してきました。……少し略……

被害にあったお友達に対して優しい気持ちをもてる子供に育ててくれて、本当に嬉しく思います。そして社会情勢を知り、他人を思いやる心を教えてくれる先生方の教育の深さに、改めて安松幼稚園に入園させて良かったと思いました。

●一昨日、尚磨が園から帰ってきて制服を脱ぎながら「ママ、10 年前、地震で大変だったんやなー。火事とかで死んだ人もいっぱいおったんやなー」と話し始めました。

先生が 10 年前の阪神大震災の事を話してくれたとの事、尚磨なりに理解していて「その時パパもママも無事だったから、尚磨と惟里は兄妹になれたんやなー」と何とも尚磨らしい事を言うので、私も下の子のオムツを替えながら、涙が出そうになりました。

園では、いつもニュースなども子供達に分かり易く かつ奥深く新聞の切り抜きなども使って話して下さり心豊かにして頂いている様で、とても感謝しています。

(4) A 改善

私達に提示頂いた自己評価 並びに、お母さんからのお便り（ここに掲げたのは、本当にごく一部です）から、改善というよりは、今の教育のまま、ひるむことなく、是非続けて行って欲しいと願う次第です。

Ⅲ. 最後に

色々と自己評価を検証してまいりましたが、自己評価と共に、私達が日常園で見聞きしていること、お母さんからのお便り を参考にしながら議論を進めてまいりました。ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であるとみとめます。